

医療の世界体感

笠松中生、3D内視鏡など見学



松波総合病院(笠松町田代)主催のメディカルセミナーが19日、同町弥生町の笠松中学校で開かれた。2年生約200人が、医療機器の操作体験などを通して病院のさまざまな仕事を体験した。

キャリア教育の一環で、同校で4年前から毎年実施している。

同院の花立史香副院長は、病院では医師や看護師だけではなく超音波技師や栄養士などさまざまな人が働いていることを紹介。この後、生徒はグループに分かれ、実際の手術で使う3D内視鏡や超音波メスなどの医療機器を紹介するブースを巡った。

同病院の医師や医療機器メーカーの社員から操作を教わり体験したほか、自動体外式除細動器(AED)の使い方や学ぶコーナーもあった。

(亀山大樹)

技師から超音波検査の仕組みを学ぶ生徒＝笠松町弥生町、笠松中学校